

分析シート

() 学校 () 年
氏名 () 男 ・ 女

記入日 () 年 () 月 () 日 () 曜日

記入者 ()

「状況把握」、「理解・実践」、「ふりかえり」の順に進みながら、子どもたちにできる支援を考えていきましょう。

状況把握

「子どもが苦戦した場面」を見つけたら、その子自身が「どんな状況にあるのか」を詳しくチェックしてみましょう。

観察チェック①では、発見した「苦戦した場面」そのものを挙げ、

観察チェック②では、その子を取りまく環境、その子自身の状態について振り返ります。
(①での気づきも含めましょう)

観察チェック③では、何がこの子の課題なのか、気になるところはどこかを見つめ、印をつけます。
(重要度によって、◎、○など使い分けてもいいです。)

観察チェック①

苦戦した場面

分類		チェックの結果
起こった状況	いつ	
	どこで	
	だれが(だれと)	
	周りの状況、様子	
	起こる頻度	
	他の気になる状況、様子	
子どもの状態	目に見える状態	
	予想される心理状態	

観察チェック②

観察チェック③

分類			チェックの結果		これまでの結果を見て特に気になる点 (◎、○など)	
環境	家庭	人的	親子、兄弟姉妹関係		➡	
		物理的	住居		➡	
	学校	人的	教師、友人との関係		➡	
		物理的	学校環境		➡	
	地域	人的	地域の人との関係		➡	
		物理的	地域の環境		➡	
	社会	地域、地域・学校外の所属機関 (チーム、習い事なども含む)			➡	
	自然	子どもが苦戦しやすい時間帯、季節、天候			➡	
発達	身体	身体全般の発達 (不器用さ、感覚の問題など)			➡	
	心理	情緒 (不安定、感情の起伏などの心の発達状態)			➡	
	社会	コミュニケーション、社会性の問題			➡	
	学力・思考力その他	できること、できないこと、その他 (体力、芸術等)			➡	

次は、③でチェックされた気になる行動を改めて書き出してみましょう。



理解・実践

観察チェック③でチェックした特に気になった部分を、
観察チェック②からそのまま抜き出しましょう。それが、その子の課題につながります。

子どもがかかえている「課題」を明確にし、
なぜ課題をかかえているのか、そうなるのか「仮説」を立てます。

仮説をもとにして、課題が改善できるような「手立て」を考えてみます。
手立ては、具体的なものを思いつくだけあげましょう。

さらに、実際の生活の中でできる実践の「方法」「期間」を設定して取り組みます。

観察チェック③でチェックした、特に気になった点を②から改めて書き出してみましょう。

<観察チェック③から>

その子は、なぜそのような行動をとってしまうのでしょうか。
本人はどんな課題をかかえているのか、なぜそうなるのか、仮説を立てましょう。

<抱えている課題>

<仮説>

仮説をもとに、具体的な手立てを考えて、実践してみましょう。

<手立て>

<実践（期間）>

ふりかえり

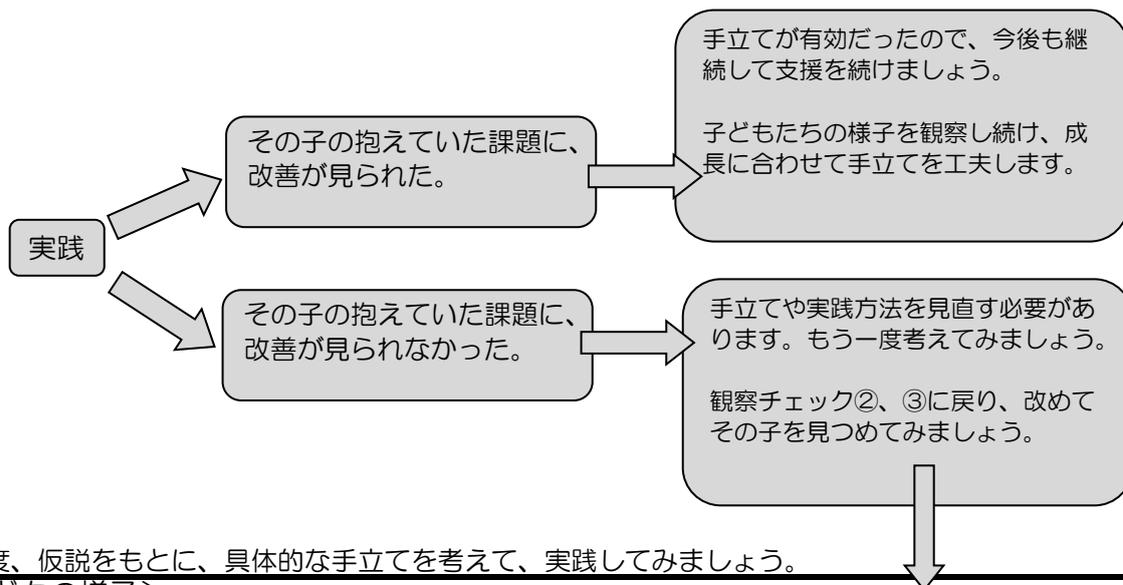
実践が有効だったかふりかえりましょう。

課題が全面的に改善されたのか、一部改善されたのか、方法・期間は適当だったかなど、考えてみましょう。

手立てや実践方法を見直す場合は、はじめの「観察チェック②、③」「仮説」などに戻り、その子を見つめ直してみましょう。

<ふりかえり>

<考察しよう>



<子どもの様子>

<今後の手立て>

<その後の実践結果>